

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることを想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと。発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります。
- 交流 100 V 以上では使用しないこと。火災・感電の原因になります。
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- アースを確実に取り付けること。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。火災などの原因になります。詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください。
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと。火災などの原因になります。
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的資格者が工事をおこなうこと。誤った配線工事は感電や火災の原因になります。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること。火災・故障の原因になります。

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）。感電および故障の原因になります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になることには取り付けないこと。火災・故障の原因になります。
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと。怪我をするおそれがあります。
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をする。鋼板の切り口や角だけが鋭くなるおそれがあります。
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。
- 部品の取り付けは、確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。
- 作業は 2 人以上でおこなうこと。レンジフードは 44kg の重さがあります。

取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通じて組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で覆ってください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前より手前にはみだして設置しないでください。捕集性能が低下する場合があります。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通過抵抗は 400m²/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは必ず取り外して排気性能が低下する場合があります。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいじるしく低下させたり、騒音が大きくなる場合があります。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けください。また、レンジフードの取付高さは、レンジフードの下部が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- レンジフード下部には、漏洩器を取り付けてください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けください。漏洩器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400m²程度の空気を入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので、不燃処理された断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下向きに設置してください（目安：勾配 1/100 ～ 1/50 程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないこと。レンジフードへの電線が遮断されます。お手入れ時期的な表示を正しくお知らせできなくなります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗表面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、レンジフードによる排気量と給気量が同じとはならず、建物の気密性によっては給気が必要となる場合があります。給気量が不足すると、不完全燃焼、吸い込み不良、異音、扉の開閉に支障が出るなどの不具合が発生する場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと。発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります。
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- アースを確実に取り付けること。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラスタ網など）と接触しないよう取り付けすること。漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること。火災・故障の原因になります。
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと。火災などの原因になります。

注意

- 周囲温度が 40℃ 以上になることには取り付けないこと。火災・故障の原因になります。
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること。鋼板の切り口や角だけが鋭くなるおそれがあります。

取り付け前の調査と準備

- 取付箇所の強度確認
 - 製品を支える強さが必要です。製品質量 44.0kg
- 天井面の穴あけ（取付詳細図-1）
 - 1) 天井面のレンジフードを取り付ける位置に開口 505mm × 奥行 355mm の開口をあけてください。
 - 2) 開口部周辺を補強板で補強してください。※補強板は、野線・野線受け等に固定してください。
- 吊りボルトの取り付け（取付詳細図-2）
 - レンジフードの吊りボルト位置に合わせて、吊りボルトを垂らしてください。
 - ※吊りボルトは、M10～12 を用いてください。※吊りボルトは製品を支える十分な強度を確保してください。必要となる強度は、建物の条件、耐震クラスなどにより異なります。
- 排気ダクトの取り出し（取付詳細図-2）
 - φ150 のスパイラルダクトを、取付詳細図-2 の位置に取り出してください。
- 標準取付寸法
 - 本製品の標準取付寸法は、調理機器上面からレンジフードの下端まで 80cm です。
 - ※火災予防条例では、クリスタルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。
- 電源コンセント・ブレーカー
 - 取り扱いは、専用コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
 - コンセントは、JIS C 8303 2極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

※必ずアース工事（接地工事）をしてください。レンジフードが駆動することがあります。

各部のなまえ

カラーセンサー、ダクトカバー（別売品）、電源プラグ、前ふた、給気穴、後ふた、横ふた、スイッチ、温度センサー、フード、リモコン・運動信号受信部、排気板センター、モーター（ディスク用）、ヘルマウス、ファン、ヘルマウス取付用ねじ（蝶ねじ）、ディスク、オイルガード、ヘルマウス取付用ねじ（蝶ねじ）、モーター、整流板

製品寸法図

（単位：mm）

ダクトカバー取付位置、吊りボルト位置、ダクトカバー取付位置、調理機器上面、調理機器はレンジフードの真下にくるように設置してください。

ダクトカバー品番	製品幅高さ A	製品取付高さ B	天井高さ C	取付寸法(例)
CDCR-115*	600	1600	2200	2280
	600	1650	2250	2330
	680	1700	2300	2380
	680	1750	2350	2430
CDCR-195*	680	1800	2400	2480
	680	1850	2450	2530
	760	1900	2500	2580
	760	1950	2550	2630

付属品

- トラスねじ (M4 × 10) 2 本
フードの取り付けに使用します。
- トラスねじ (M5 × 12) 6 本
フードの取り付けに使用します。
- フード固定金具 1 個
フードと本体の固定に使用します。
- ソフトテープ 2 本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。
- 整流板 1 個
本体に取り付けて使います。

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること。鋼板の切り口や角だけが鋭くなるおそれがあります。
- 作業は 2 人以上でおこなうこと。レンジフードは 44kg の重さがあります。

付属品を確認します。梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一頁により不足がないか確認してください。

お願い

- 保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「3. フード・本体の準備」までは必ずおこなってください。
- 床で作業する場合は、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 取付準備

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の建屋に金属製ダクトが貫通する場合は、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること。漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります。
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと。火災などの原因になります。
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。火災などの原因になります。詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください。

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）。感電および故障の原因になります。
- 周囲温度が 40℃ 以上になることには取り付けないこと。火災・故障の原因になります。

- 事前に施工業者（法的資格者）へ天井面のダクト穴の開口を依頼してください。（図 2-1）また、天井開口部近くの補強板または野線等に専用コンセントを設置します。
- φ150 のスパイラルダクト、またはスパイラルダクトを回のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。（図 2-1）
- M10～12 の吊りボルト（取付作業側の手袋）を 4 本、天井内の梁などの強度な部分に固定します。固定ピッチは前後 300mm、左右 485mm です。（図 2-1）

お願い

天井面からの吊りボルトの突き出し長さ (A) およびダクトの突き出し長さ (B) は、製品幅高さ (範囲: 600～760mm) により異なります。製品寸法図を参照して、次式により算出してください。

例	製品幅高さ	吊りボルトの突き出し長さ (A)	ダクトの突き出し長さ (B)
600	160 (+10) まで	100 (+10)	100 (+10)
680	240 (+10) まで	180 (+10)	180 (+10)
760	320 (+10) まで	260 (+10)	260 (+10)

※「製品幅高さ」寸法は、「ダクトカバー（別売品）」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。

3. フード・本体の準備

お願い

- はずしたねじは取り付けの際に使用しますのでなくさないでください。
- はずした部品は変形させないよう、平らな場所に置いてください。また、はずした部品は床などにキズを付けないようご注意ください。
- 金具の変形防止のため、(図 3-1) のように必ず天パッドの上に仕切パッドを載せ、その上にフードを置いて作業してください。

■ フードの準備

- オイルガードの固定テープをはずします。（図 3-1）
- 保護用クッション材をはずします。（図 3-2）
- ディスクをはずします。（図 3-3）
- ふさぎ板をはずします。（図 3-4）
- 天板前・天板後をはずします。（図 3-5）

お願い

天板に貼ってあるキズ防止テープは取り付けが完了するまでははがさないでください。

- 天板前をななめに持ち上げ、ツメ 4ヶ所をはずします。※天板を変形させないようご注意ください。
- 天板後を固定しているトラスねじ (M4 × 10) 2 本をはずし、ななめに持ち上げてツメ 6ヶ所をはずします。※天板を変形させないようご注意ください。
- 取りはずしたねじは「4. 本体の取り付け」にて再度使用します。なくさないでください。

■ 本体の準備

- 前ふた・後ふたをはずします。（図 3-6）
- 横ふたをはずします。（図 3-6）
- 本体左側の内ふたをはずします。（図 3-7）
- ソフトテープを貼り付けます。（図 3-8）

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。
- 部品の取り付けは確実におこなうこと。落下によりけがをするおそれがあります。

- レンジフードの固定位置を決めます。（図 4-1）
- 吊りボルトにマジックペンなどで、天井から X の値の位置にマーカーをつけます。

- ダクトカバー（別売品）を取り付けます。（図 4-2）
- 吊りボルトにナットを取り付けます。（図 4-3）
- 本体を吊りボルトに固定します。（図 4-4）
- 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 4-5）
- 給気口・排気口設置面の漏洩確認のお願い（図 4-6）
- ダクトカバーと本体を固定します。（図 4-7）

お願い

給気口・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトに接続しようとすると、設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏洩する場合は、給気口・排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏洩防止処置をおこなってください。

お願い

ダクトカバー付属品のソフトテープを天井裏などのコンセントに差し込みます。※必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。

お願い

ダクトカバー付属品のソフトテープを天井裏などのコンセントに差し込みます。※必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。

お願い

ダクトカバー付属品のソフトテープを天井裏などのコンセントに差し込みます。※必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。

取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた（つづき）

7 フードを取り付けます。

- 1) フードを持ち上げた状態で、フードから出ているモーターの配線を本体下部から通し、本体左側に引き出します（図4-8 1）。
- 2) フード後側の引掛け線を本体後側に引っ掛け、フードを左に寄せます（図4-8 2）。

お願い

配線を挟まないようご注意ください。

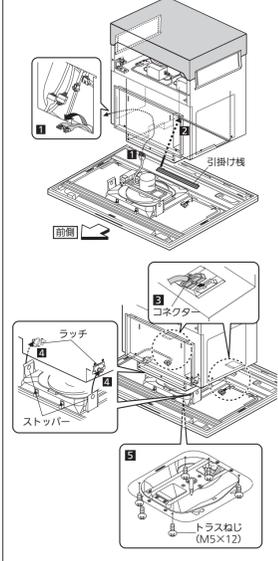
- 3) フードの左右から出ている電気配線のコネクターをそれぞれ本体の下側左右にあるコネクターに接続します（図4-8 3）。
- 4) フード前側を持ち上げ、ストッパーが本体のラッチに「カチッ」とロックされるまで持ち上げます（図4-8 4）。

お願い

ストッパーとラッチが確実に引っ掛かったことを確認してください。ロックが不完全なまま作業を続けると、フード部が落下するおそれがあります。

- 5) 付属品のトラスねじ（M5×12）6本でフード下側から右図の各位置を固定します（図4-8 5）。

図4-8



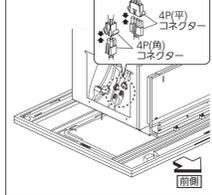
8 コネクターを接続します。（図4-9）

本体内側の4Pコネクター（平）と4Pコネクター（角）を本体の4Pコネクター（平）と4Pコネクター（角）にそれぞれ接続します。

お願い

コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。

図4-9



9 本体横の内ふたを取り付けます。

「3. フード・本体の準備」■本体の準備、手順3で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

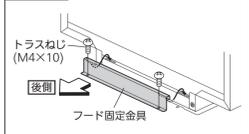
10 天板前・天板後を取り付けます。

「3. フード・本体の準備」■フードの準備、手順5で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

11 フード固定金具を取り付けます。（図4-10）

本体背面に付属品のフード固定金具を引っ掛け、トラスねじ（M4×10）2本で固定します。

図4-10



12 ふさぎ板、ディスク、オイルガードを取り付けます。

「3. フード・本体の準備」■フードの準備、手順2～4で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。
※はずした保護用クッション材は取り付けずに廃棄してください。

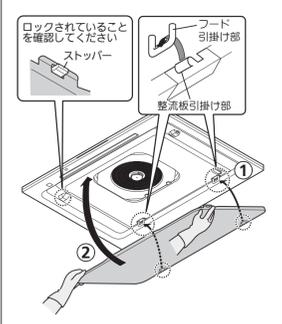
13 整流板を取り付けます。（図4-11）

- 1) 奥側左右の整流板引掛け部をフード引掛け部に確実に引っ掛けます（1）。
- 2) 整流板を両手で支えながら手前側を上を持ち上げ、左右のストッパーを押しながらロックします（2）。取り付け後は整流板を上下に動かし、はずれないことを確認してください。

お願い

整流板の固定は、確実にこなしてください。ロックが不十分ですと落下の原因になります。

図4-11



5. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
故障や雷電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

■「4. 本体の取り付け」手順4の2)で以下の作業をおこないます。
分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

- ・電源は専用のコンセント（2極接地極付差込接続器 15 A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- ・「6. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

6. 試運転

注意

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 必ず最終設置した状態で試運転してください。
- 整流板やディスクが正しく取り付けられていないことを確認してください。整流板が正しく取り付けられていないと、運転停止機能により運転ができません。ディスクを取り付けていないか、取り付けが不完全な状態で運転すると、ディスク付け忘れお知らせ機能により、付け忘れをお知らせします。整流板とディスクの取り付けについては取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。
- 風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

7. 横ふた・前ふた・後ふたの取り付け

- 横ふたは左右同一品です。
 - 横ふたを先に取り付けてください。
 - 給気穴のある前ふたは必ず給気幕板のある側に取り付けてください。
※ 横ふたと間違えると給気ができなくなります。
 - 取り付けかたは「3. フード・本体の準備」の取りはずしかたを参考にしてください。
- お願い**
- ・取り付けの際は、フード天板面にキズをつけないように注意して取り付けてください。
 - ・横ふた・前ふた・後ふたの取り付けが終わったら、フード天板に貼ってあるキズ防止テープをはがしてください（図3-5参照）。
- ※ 取付作業完了後は製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープはもとの状態に取り付けてください。

8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

【製造元】 富士工業株式会社

本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
TEL 042(768)3754（営業部）